

養鶏業界の気になる話題をまとめて解説

全農養鶏セミナー2024

期間 2024年9月9日～9月30日

方法 オンライン配信 参加費 無料

J A全農畜産生産部は2024年9月9日から9月30日まで、「全農養鶏セミナー2024」をオンライン形式で開催しました。業界の気になる話題を一度に学べるセミナーということで、多くの皆さまにご参加いただきました。ここでは、配信したセミナーのポイントをご紹介します。



テーマ1 直近の飼料原料情勢

全農穀物外為課

課長 鮫嶋 一郎

全農蛋白質原料課

課長 境 健司

飼料価格に大きく影響するトウモロコシと大豆の直近情勢について、全農の原料部門より解説をしました。トウモロコシについては20～22年にかけて、シカゴ

相場が高騰していたものの、直近に関しては、米国・南米ともに順調な作柄予想で、また、中国の輸入需要も一定落ち着いてきていることもあり、相場は落ち着いてきています。

大豆についても同様に、米国の順調な作柄予想が、シカゴ相場に反映されています。また、米国では再生可能ディーゼル(RD: Renewable Diesel)・持続可能エネルギー 由来の航空燃料(SAF: Sustainable Aviation Fuel)向けの大豆油の需要が大幅に増加しており、これに

テーマ3 鳥インフルエンザ

全農 家畜衛生研究所 クリニック 東日本分室

獣医師 三牧 茜
獣医師 土屋 厚人

全農畜産サービス株式会社
施設素ひな事業部 素ひな営業課

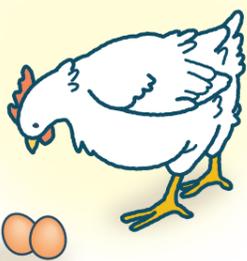
鈴木 康仁

全農畜産サービス株式会社
資材 大家畜事業部 営業課

西岡 真二

鳥インフルエンザについては、全農クリニック 東日本分室から昨シーズンの振り返りと、鶏舎に野生動物を侵入させないための取り組みについて、全農畜産サービス(株)から鶏舎への鳥インフルエンザ対策用フィルター設置と首撃カラススナイパーについて紹介しました。

昨シーズンも、農場で鳥インフルエンザが発生し、また野鳥でも鳥インフルエンザウイルスの検出が多数報告され、ますます防疫対策の重要性が高まっています。その中でも、鶏舎内へウイルスを持ち込ませない取り組みは最重要です。鶏舎周りの目視やセンサーカメラを使うことで、今まで気付かなかったリスクの削減を行うことができます。また鶏舎へのフィルター設置や、AIを使ったカラスの



JA全農たまご株式会社
東日本営業本部 第一営業部

次長 桑原 徹平

テーマ2 鶏卵の需給動向と今後の見通し

直近の鶏卵の需給動向について、JA全農たまご(株)から解説をしました。22年に発生した高病原性鳥インフルエンザの影響から、直後の23年の鶏卵相場は高

図1. 米国大豆搾油工場の増加



勢が注目されます(図1)。
伴い新規搾油工場の建設が進むなど、情勢に大きな変化が現れており、今後の情勢が注目されます(図1)。

テーマ4 全農グループにおける養鶏技術情報と農場調査等の取り組み

全農 飼料畜産中央研究所 養鶏研究室

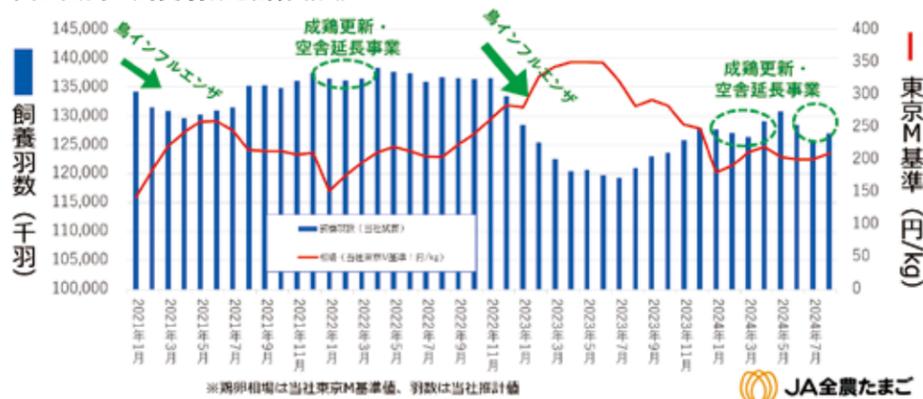
轟 佳那子

飼料畜産中央研究所からは、全農が提供する技術情報誌の紹介と農場での取り組みの紹介を行いました。本誌では、これまで多くの優良事例や技術情報を掲載してきました。さらに本年4月からWEB版もリニューアルしており、過去の情報もキーワード検索で簡単に探せるようになっていきます。この機会にぜひ、WEB版へアクセスしてみてください。

ちくさんクラブ21 WEB版



図2. 国内の飼養羽数と鶏卵相場



騰し、結果的に国内の鶏卵消費量は22年以前と比べて縮小しました。その後、国内の飼養羽数は徐々に戻ってきたものの、22年以前の水準までは戻っていません(図2)。

写真1. 鶏舎での野生動物侵入防止の取り組み例

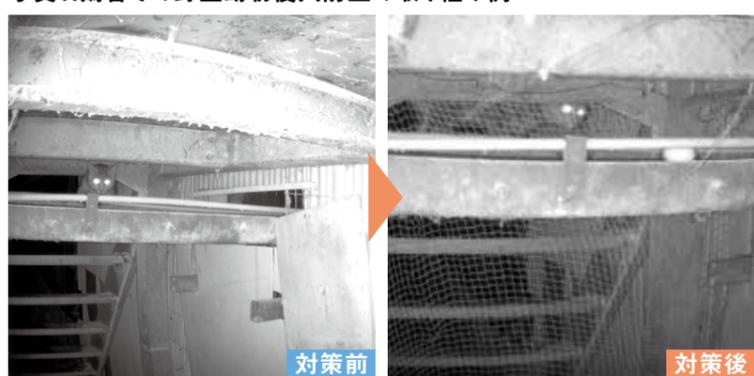


写真2. 入気口へのフィルターの設置

